

# 海夫通信 第31号

【海夫】潮の香りをほのかに残すここ霞ヶ浦にもかつては多くの海の民がいた。海に寄り添い、潮の流れとともに暮らしていた人たちに思いを寄せて、今生きる霞ヶ浦の海夫たらんとす。

NPO法人霞ヶ浦アカデミー会報

## NEWS

### 霞ヶ浦の子どもたち “たかっぼ”漁を体験

TAKE  
FREE

## CONTENTS

- 【特集】 たかっぼでうなぎを捕ろう!?
- 【特集】 振り返る水産フェスタのポスター展
- 【連載】 霞ヶ浦プランクトン異変史2
- 【報告】 通常総会を開催しました

# たかっぼで、 なまを獲ろう! ?

毎月第3日曜日※

参加者  
募集

森 保文

## 生

き物アカデミーでは、今年度、新企画として、伝統的な漁法を学びながら霞ヶ浦で遊ぶ催しを始めました。第一弾は、「たかっぼ」です。まずは、竹を1mぐらいの長さに切って、中の節を抜いて、さらに3本を束ねて、たかっぼを作りました(2019年5月19日)。講師は霞ヶ浦アカデミー副理事長の額賀さんです。これを水路に沈めて水になじませていますが、待ちきれずに3個はさっそく霞ヶ浦に仕掛けました。これらを一月後に引き上げると(6月16日)、大きなヌマチチブやテナガエビが捕れました! ニホンウナギが入る日を夢見て今も仕掛

※生き物アカデミーのプログラムは毎月異なります



①



②



④

け中です。スタッフは、これに先立ち、近隣の竹林から竹を切り出してきました(4月20日)。たかっぼには真竹が適しているということですですが、竹林にはモウソウ竹も混じっていて見分けるのに苦労しました。こういうのも勉強です。また、竹筒3本を束ねる巻き結びなど、役に立つ技術も習得中です。参加者およびスタッフを募集中です。興味のある方はぜひご参加ください。

①たかっぼ製作中 ②たかっぼを仕掛ける ③ヌマチチブ、テナガエビ ④中央右の真竹は厚みが少ないが、左のモウソウ竹は厚みがある



③

振り返る「湖の民たちのなりわい」  
水産フェスタの  
ポスター展



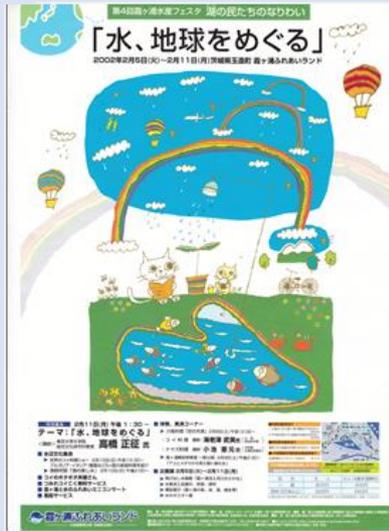
1999



2000



2001



2002



2003

木村陽一さんを悼む  
当会の創設メンバーの木村さんには当会の副理事長として昨年6月ごろまで企画運営等に当たってこられた。昨年春ごろから体調を崩され療養をつづけておられましたが2019年5月10日ご逝去されました。慎んでご冥福をお祈りいたします。

木村陽一さんには1999年から当会のきっかけとなる大イベント「湖(かわ)の民たちのなりわい」やその後の法人化等本会の活動を牽引してこられました。

ごく最近にまで会報「海夫通信」に「水商売の思い」と題する水資源開発公団時代の体験記で水資源開発管理の重要性や熱い思いを吐露していただきました。また、理事会等の場でも水資源問題について議論を展開していただいております。

木村さんには1999年春から現在にいたる21年間、多岐にわたって当会の活動を支えてこられました。忘れることのできないのは、5年間にわたる「湖の民たちのなりわい」と題する霞ヶ浦の漁業や魚食文化の広報活動です。氏の企画運営人望で官民一体の企画運営

で毎回2千人におよぶ参加で大盛況を招いていただきました。2008年10月からは7年にわたって毎月(東北地方太平洋沖地震直後の1回を除く)開催された「霞ヶ浦定期連続講座」も木村様の遺産となりました。水資源開発管理の広報を中心に生物多様性や霞ヶ浦史等霞ヶ浦問題を網羅する内容となっていました。現在、新しいメンバーによって継承され毎年数回開催されています。

また忘れてならないのは東日本大震災発生時の霞ヶ浦湖水の安全性確保のための活動です。流域から運ばれ霞ヶ浦に蓄積される放射能汚染から湖水や生物群集を守るための活動です。問題を解決のために専門の土木工学的視点からの対策を構築、提唱されました。その成果は第17回世界湖沼会議で発表され、これが木村さん最後の仕事となりました。

木村さんは病氣療養中にも新しい時代に相応しい霞ヶ浦管理について研究を続けておられました。その遺志を引き継ぎ実現していくことを誓い追悼いたします。

(浜田篤信)

# 霞ヶ浦プランクトン異変史 2 アナベノプシス ラシボルスキー (2)

浜田 篤信

1968〜72年の状態

霞ヶ浦で1968年に観測史上初めて発生したアナベノプシス・ラシボルスキー (Anabaenopsis raciborskii) は翌年になると少なくとも再び3年後の71年に再び大発生します(訂正:前号の最初の発生年63年は68年の誤り)。

この期間の優占種はアナベノプシスの他にアオコ(ミクロキスチス)とオシラトリア(プランクトスリックス)の3種です。この他に珪藻類のメロシラ、シネドラ、緑藻類のジェミネラ等が比較的頻繁に出現しています。図1に1968年9月から72年2月の間の3種の出現状況を示しました。アナベノプシスは68年秋季にアオコを上回って大発生していますが、その後もアオコと殆ど同じ変動傾向で高密度に出現しています。

この期間のアオコとアナベノプシスを比較すると68年と70年の2年でアナベノプシスがアオコを上回っています。なぜ、この期間に限ってアナベノプシスが優占種となったのか?これが最大の謎ですが、勿論、原因は明らかにされていません。

オシラトリアも毎年出現していますが、他の2種に比較すると分布密度は、やや低めで1971年秋季に突然急上昇しアオコやアナベノプシスを凌駕し大増殖しています。オシラトリアが、神ノ池でアナベノプシスと同時に大発生していたことは前号でお話したとおりです。相互に何らかの関係の有していたのではないかと考えられるのです。

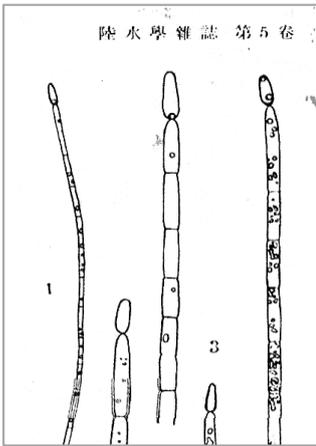


図 アナベノプシス

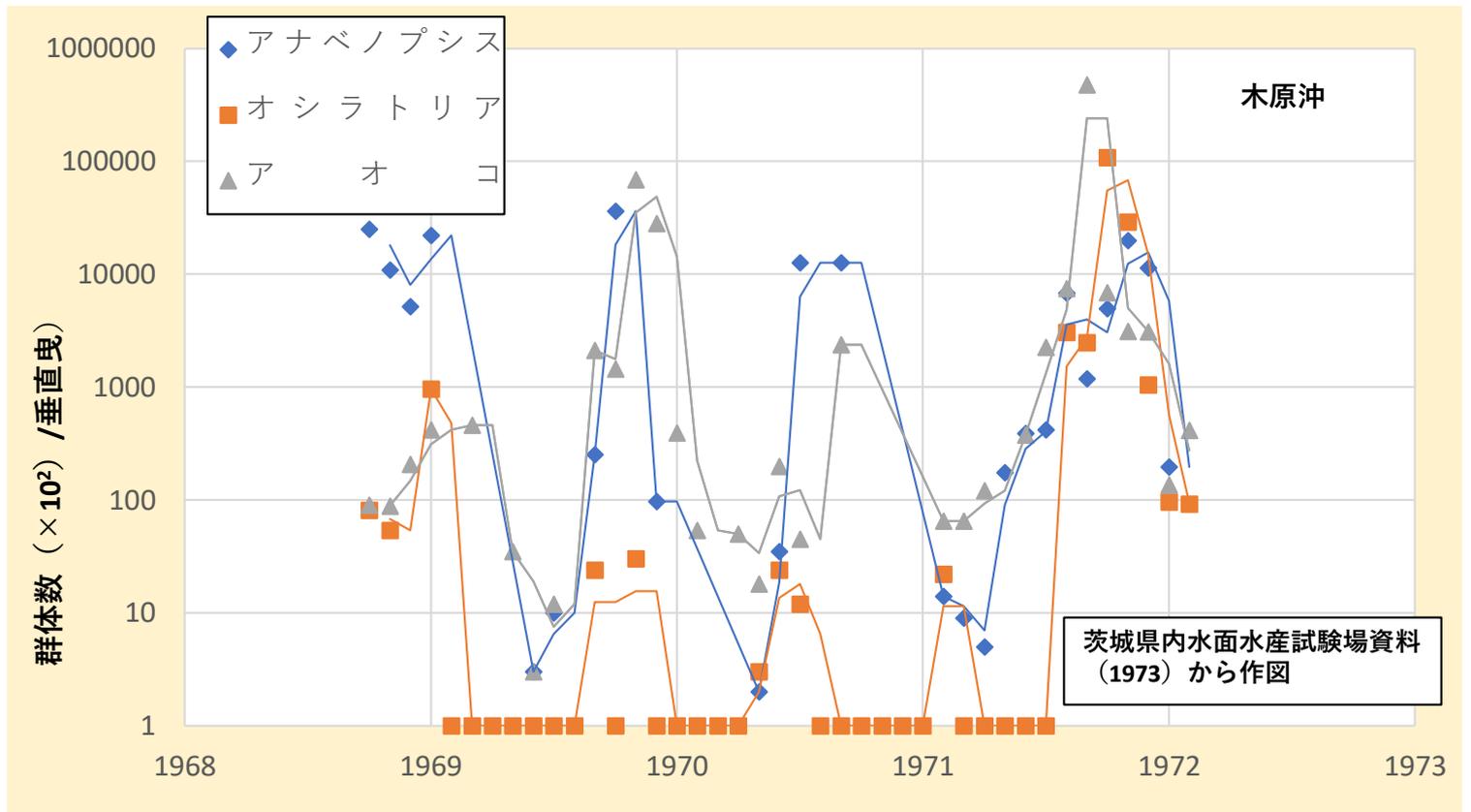


図1 1968年9月から72年2月の間の3種の出現状況

霞ヶ浦での魚病発生

本誌30号で本種が  
神ノ池で大発生した  
こと、それにともなっ  
てフナに異変が生じ  
がことを紹介しまし  
たが、霞ヶ浦で本種  
出現期間中の71年

10月から翌年にか  
けて同様の現象が発  
生しています。殆ど  
の魚種がアナアキ病  
に罹病していますが、  
罹病率が高かったの  
はマハゼ、ヒガイ、ボ  
ラ（罹病率50%以  
上）で、コイ科魚類  
は10%程度、ワカサ  
ギ6%と報告されて  
います。その原因に  
ついてはカビが原因と  
されていますが、カ  
ビに先行する一次原

因は不明とされてい  
ます（茨城県内水面  
水産試験場報告11  
号）。以上のよう  
な神ノ池と霞ヶ浦の  
共通の現象の中に本  
出現の原因のカビが  
隠されているのでは  
ないかと考えられる  
のです。

霞ヶ浦で、このナゾ  
のプランクトンが出  
現していたことが取  
り上げられたことは  
これまで一度もあり  
ませんでした。

ここで問題として  
いる時期（1968～  
1975）は霞ヶ浦富  
栄養化防止条例公  
布（1981）以前で、  
この問題が視野には  
いつてこないの  
う。

この時代の特徴の

一つは水位です。1  
948年から始まっ  
た北利根川の引堤・  
浚渫によって下流の  
水はけがよくなり、  
霞ヶ浦の水位が年々  
低下していきま  
す（図2）、さらに水  
位の低下によって、  
塩素イオン濃度も湖  
心で

総当たり400ミ  
リグラム近くに  
上昇します。問題  
となるこの期間  
は自然水位変動  
期の最終段階に  
当たりま  
す。こ  
うしたことから  
アナベノフシス優  
占や、この後  
に続く一連の  
プランクトン異  
変、あるいは  
水質変動が、  
水位に影響を  
受けている  
のではないかと  
考えられる  
のです。

この記事を書いた人



濱田篤信（はまだあつのぶ）NPO法人霞ヶ浦アカデミー。東北大学農学部修士課程修了（海洋学専攻）。農学博士。東北大学助手を経て、茨城県水産試験場内水面試験場に勤務。主な著書に『新しい自然保護の考え方』（共著、古今書院）『霞ヶ浦の魚たち』（共著、霞ヶ浦情報センター）等

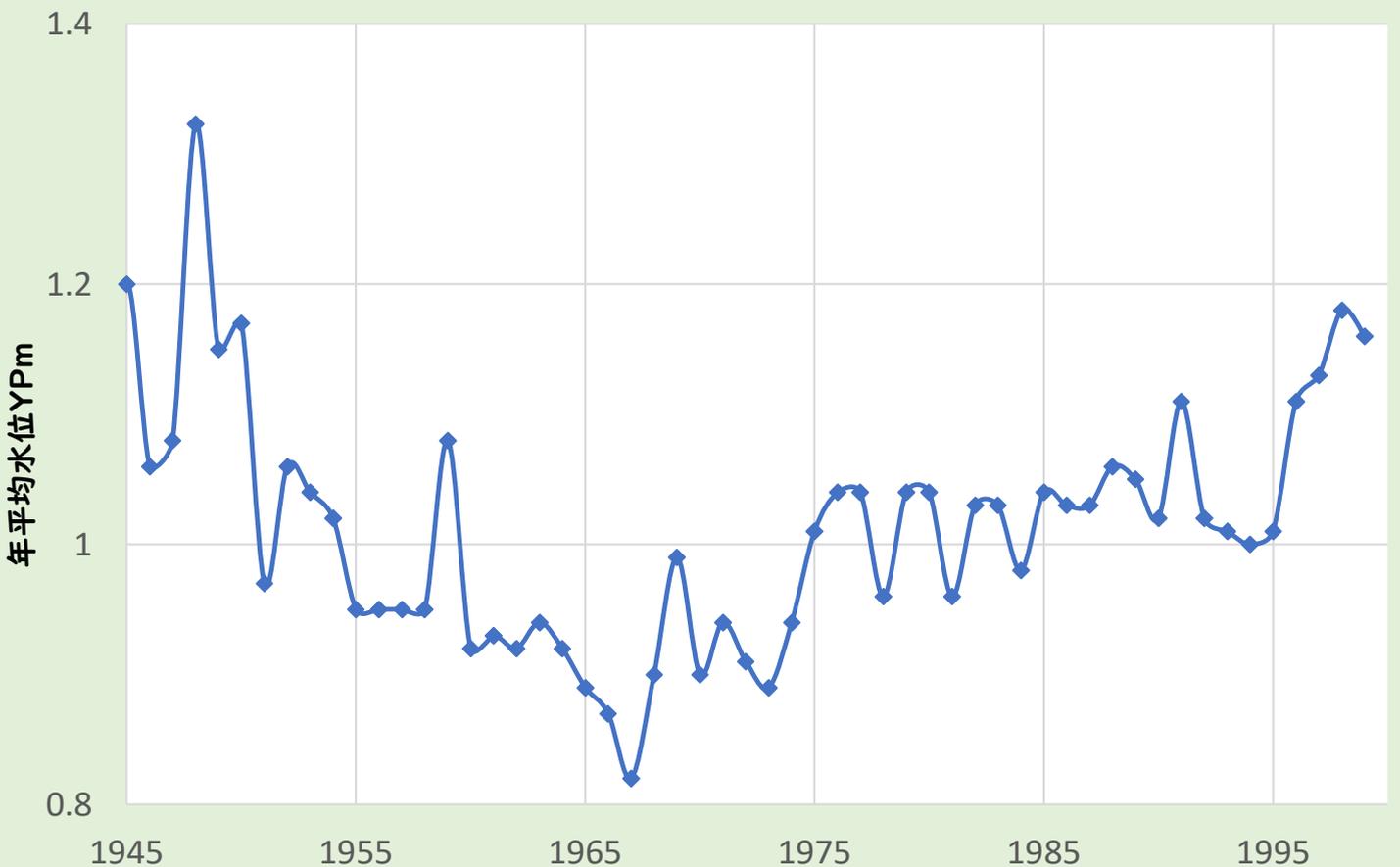


図2 年平均水位 〈水資源機構平成28年12月21日から〉

# 2019年度 通常総会を開催しました

2019年5月19日、茨城県霞ヶ浦環境科学センター会議室にて、通常総会を開催しました。出席者数13名で、評決委任者数16名を合わせると29名となり、会員数の過半数を超えるため、通常総会として成立しました。

報告事項として、(報告第1号)2017年度修正報告の承認の件、(同第2号)2018年度事業報告の承認の件、(同第3号)2018年度会計報告の承認の件、(同第4号)監査報告が議題とされ、満場一致で承認されました。

審議事項としては、(議案第1号)2019年度事業計画(案)の承認の件、(同第2号)2019年度予算(案)の承認の件、(同第3号)役員選任(案)の承認の件について議論され、承認を議場に諮ったところ、満場一致により議決されました。

今回、新たに理事に加わってくださった喜多見照男氏は、生き物アカデミーの活動において、熱心に子どもたちへの教育活動に取り組んでくださり、今後より深く活動に関わっていただきたいと推薦の声が上がっていました。一緒に霞ヶ浦の活動に取り組めること、メンバー一同嬉しく思っています。

## (報告第2号)

### 2018年度 事業報告

#### 活動の概況

わたしたちNPO法人霞ヶ浦アカデミーは平成30年10月で設立10周年を迎え、さらに茨城県で第

17回世界湖沼会議が開催されたことで、これまでの活動を振り返り、まとめることができました。世界湖沼会議の中では、「霞ヶ浦における放射能汚染への私たちの対応」、「日本ウナギ衰退原因の新しい仮説」の2つの報告を行い、東日本大震災時の原子力発電所爆発による霞ヶ浦の放射能汚染への対応、逆水門とウナギの漁獲量の関係についての仮説を報告しました。また世界湖沼会議に合わせて開催された第34回水郷水都全国会議においても、霞ヶ浦開発について報告いたしました。

「生き物アカデミー事業」においては、小中学生が霞ヶ浦で体験できる場としての役割を重視し、講座を再構築しています。葦舟の制作は4年目に入り、本年は国土交通省河川管理事務所に届けを出し、はじめて霞ヶ浦の岸に生える葦を刈り取り、その葦を原料に舟を作りました。本年は、目の前にある出来ることを進めていく1年でした。

#### 特定非営利活動に係る事業

##### 1 生き物アカデミー講座開催

小中学生を中心に生徒を募集し、霞ヶ浦における観察会を中心に魚類の採集や調査を行いました。特に、湖岸の自然の再生について観察会や討論、提案等を行いました。

- 4月15日「フナ産卵場を調べる」講師・浜田篤信
- 5月20日「フナ産卵場を調べる」講師・浜田篤信

##### 2 講演会

- 6月17日「水辺の生き物を観察」講師・浜田篤信
- 7月15日「夏の魚類を調査する」講師・浜田篤信
- 8月19日「カヌー体験」講師・森保文
- 9月16日「カヌー体験」講師・森保文
- 10月21日「エビ、ハゼを捕まえよう」講師・浜田篤信
- 11月18日「エビ、ハゼを捕まえよう」講師・額賀勝男
- 12月16日「アシ舟を造る①アシの刈り取り」講師・森保文、額賀勝男、菊地章雄
- 1月20日「アシ舟を造る②パーツの組み立て」講師・森保文、額賀勝男、菊地章雄
- 2月17日「アシ舟を造る③葦船に乗る」講師・森保文、額賀勝男、菊地章雄
- 3月17日「フナ産卵場を調べる」講師・浜田篤信、額賀勝男

(1)「霞ヶ浦開発からウナギを見る」5月実施 講師・浜田篤信氏(監事) 場所・茨城県県南生涯学習センター 小講座室2(土浦市)

(2)水中写真家中村卓哉氏講演会「辺野古 海と森がつなぐ命」12月実施 講師・中村卓哉氏(水中写真家) 場所・霞ヶ浦環境科学センター 多目的ホール(土浦市)

##### 3 調査研究事業

- (1)ニホンウナギの資源研究
- (2)放射能汚染についての調査研究

## 2018年度 収支決算書

### 特定非営利活動に係る事業

#### 収入の部

費目	予算額(円)	決算額(円)	増減
前年度繰越金	467,317	467,317	0
入会金・会費	50,000	36,000	△14,000
事業費	50,000	121,600	71,600
寄付金	200,000	230,000	30,000
助成金	500,000	249,000	△251,000
その他事業から	50,000	0	△50,000
雑収	683	5	△678
合計	1,318,000	1,103,922	△214,078

#### 支出の部

費目	予算額(円)	決算額(円)	増減
(事業費)	1,000,000	617,105	△382,895
会議費	100,000	4,670	△95,330
報償費	250,000	110,000	△140,000
消耗品費	100,000	451,775	351,775
印刷費	500,000	31,740	△468,260
保険料	50,000	18,920	△31,080
(管理費)	318,000	124,435	△193,565
旅費	100,000	23,180	△76,820
事務費	30,000	30,101	101
通信運搬費	50,000	56,154	6,154
会費等	100,000	15,000	△85,000
予備費	38,000	0	△38,000
合計	1,318,000	741,540	△576,460

いいね!お願いします

facebookで  
日々の活動を更新中!



2019年度収支予算(案)

特定非営利活動に係る事業

収入の部

費目	予算額(円)	前年度予算額(円)	増減
入会金・会費	50,000	50,000	0
事業費	100,000	50,000	50,000
寄付金	150,000	200,000	△50,000
助成金	500,000	500,000	0
その他事業から	50,000	50,000	0
雑収	18	683	△665
前年度繰越金	362,382	467,317	△104,935
合計	1,212,400	1,318,000	△105,600

支出の部

費目	予算額(円)	前年度予算額(円)	増減
(事業費)	760,000	1,000,000	△240,000
会議費	10,000	100,000	△90,000
報償費	100,000	250,000	△150,000
消耗品費	100,000	100,000	0
印刷費	500,000	500,000	0
保険料	50,000	50,000	0
(管理費)	452,400	318,000	134,400
旅費	100,000	100,000	0
事務費	30,000	30,000	0
通信運搬費	50,000	50,000	0
会費等	15,000	100,000	△85,000
予備費	257,400	38,000	219,400
合計	1,212,400	1,318,000	△105,600

- 4 日越漁村農村交流会  
2018年10月6日・7日の1泊2日で「日越農村漁村交流会2018秋」を実施しました。これまで実費負担という形で実施していましたが、今回から参加費を明示し参加しやすい形で実施しました。カヌー、栗拾いを体験し、夜はベトナム料理を食べながら交流会を行いました。(参加者数11名+スタッフ等8名)
- 5 水郷水都全国会議への参加  
(1)久留米大会  
(2)霞ヶ浦大会の開催
- 6 トンボサミット湘沼大会・トンボキッズ  
「昆虫観察会」、「ベトナム竹とんぼに色を塗ろう」の2講座を担当しました。
- 7 出張講座  
(1)なめがたミレニアムマルシェ  
(2)行方市ふれあいまつり  
(3)笠間公民館サマースクール  
8 広報事業

**Vietnam & Japan 8月24日 (集合) JR羽鳥駅 or 土浦駅**

**国際交流 & 湖上スクール 参加者募集!**



- (1)会報の発行  
2018年10月30号を発行しました。
- (2)ホームページの構築  
ホームページを一新して見やすくしました
- (3)ブログ・フェイスブックの更新  
ブログ「海夫通信」と、フェイスブックの更新を定期的に行っています。フェイスブックのフォロワーは250名(前年比+9名)、投稿回数は51回、記事ことのアケセス数は最大715件です。
- 9 設立10周年記念誌の作成  
設立10周年記念誌の原稿を作成しました。

- (議案第1号) 2019年度事業計画
- 1 基本方針  
NPO法人霞ヶ浦アカデミーは2008年10月に設立し、2018年10月で10周年を迎えました。
- これまでの活動を振り返り、未来への活動を創っていく大切な1年と位置づけられます。私たちはどのような社会を目指し、そのために何をしていくべきなのか改めて議論を深めていく必要があると考えています。議論を深めるにあたり、私たち自身も一緒に霞ヶ浦を学ぶ必要性があると考え、昨年度末から霞ヶ浦の漁業について体験しながら学んでおります。
- 「湖がある暮らし」のデザインを目標に、これまで10年の活動をさらに発展させていきます。
- 2 理事会等の運営  
毎月第3日曜日の午後定期的に理事会を開催します。運営はできる限りオープンにし、オブザーバーの参加を歓迎します。
- 3 特定非営利活動に係る事業  
(1)設立10周年の冊子の発行  
昨年度編纂した冊子を印刷・配布いたします
- (2)生き物アカデミー講座開催  
霞ヶ浦における観察会を中心に魚類の採集や調査を行います。子供たちの問題解決能力・生きる力・自主性向上を
- (3)霞ヶ浦に親しむ事業  
①親水事業 行方カヌー部と連携し、カヌーなど水と親しむ活動を推進していきます。  
②魚食の普及 霞ヶ浦の水産資源の普及に係る活動を推進していきます。
- (4)霞ヶ浦講座  
霞ヶ浦の環境、生物、歴史、開発等に関係するテーマについて4回程度実施します。本年度は霞ヶ浦のこれからの漁業を考え、漁師養成講座を開催します。
- 茨城県霞ヶ浦環境科学センターの事業である湖上スクールを活用した講座を開催します。
- (5)調査研究事業  
①自然の研究  
・ニホンウナギの資源研究  
絶滅危惧種「ウナギ」に指定された本種について、すでに研究を始め、その成果は会報で取り上げました。本種の保全には霞ヶ浦の適正な管理が必要であることが明らかになりつつあるため、より精度の高い研究に取り組み、ウナギ復活のための提言を行います。  
・ピオトープの設置と生物多様性の研究
- (6)日越農村漁村交流事業  
経済成長とともに衰退した日本の漁村、農村の姿を見て、発展途上国ベトナムにおける持続可能な地方の在り方を考えてほしいと思いついて昨年度から開催しています。
- (7)広報事業  
海夫通信を4回発行します。ホームページはコンテンツを充実させます。ブログ、フェイスブックは定期更新し情報を発信します。



# みんなの 活動写真館



フナの産卵調査(3月17日/4月21日)

水温が少しずつ上昇し、そろそろたまご産まないかな〜と観察会を実施。  
たくさんの産卵を確認しました。



日越交流会2019春(4月27日-28日)

Vietnam&Japan春の交流会は、田植えとカヌー体験、そして早朝の張網での魚とりの体験を行いました!

わいわい、がやがやと霞ヶ浦を体験しました!(参加者16名)



【執筆者】菊地早秋。神奈川県藤沢市出身。ライター。「トリップノート」、「銭湯といえは足立」連載。H30「いばらぎ自然環境フォトコンテスト」部門賞。羽田空港主催「私の旅する日本語2018」大塚製菓賞。

山田さん

夫

こんにちは。2019年春より霞ヶ浦アカデミーに入会させて頂きました、ライターの菊地早秋(きくちさき)と申します。

これから海夫通信内で文章を書かせて頂くことが、時々あるかもしれません。よろしくお願い致します!

さて先日、5月28日に、額賀勝男さん、夫の菊地章雄と共に、霞ヶ浦をご案内した方がいらっしゃるのご報告です。

「森のシンガーソングライター」こと山田証(やまだあかし)さんです!宇佐神宮(大分県)近くのゲストハウスで偶然出会い、今回ご案内することになりました。

山田さんは、森林インストラクターとして森の解説を交えながら、森の中でギターと歌を披露される、社会貢献型のミュージシャンです。

より自然を感じやすくするため、ゲストは森の中で寝転び、空を見上げてコンサートを聞くスタイルをとっています。これを「ごろんコ

ンサート」と名付けています。

そして来年度以降、山田さんをお招きし霞ヶ浦で「ごろんコンサート」ができたらいいなあなんて思っています!



## 発行 NPO法人霞ヶ浦アカデミー

発行日 2019年7月15日

事務所 茨城県行方市浜370番地1

ホームページ <http://www.k-academy.sakura.ne.jp>

Facebook <http://www.facebook.com/kasumigauraAC/>

ブログ [http://blog.livedoor.jp/kasumigaura\\_ac/](http://blog.livedoor.jp/kasumigaura_ac/)

【会員募集】NPO法人霞ヶ浦アカデミーは、活動を共にしてくれる、また応援してくれる会員を募集しています

普通会員 入会金 1,000円/年会費 3,000円

賛助会員 1口 10,000円

【入会の方法】

氏名、住所、連絡先、会員の種類をご記載の上、メールもしくは郵送でご連絡下さい。

✉ [kasumigaura.academy@gmail.com](mailto:kasumigaura.academy@gmail.com)